三菱ふそうトラック・バス（株）　【新長期規制適合の小型トラック・中型トラック（～2008年型）】

再生制御式DPFの取り扱いについて

対象車種　キャンター・ファイター・ローザ・エアロエース（MM）・エアロミディ-S・エアロスター エコ ハイブリッド

インジケータランプが点滅したら

ウォーニングランプ　インジケータランプ　DPFクリーニングスイッチ

50km走行（PTO作業は約1時間）以内に下記の操作を行ってください。

キャンターの場合

手動クリーニング（再生）操作

1 安全な場所に停車
・排気口付近に可燃物がないことを確認してください。
・排気管やマフラー付近および排気ガスには触れないでください。やけどの恐れがあります。

換気の悪い場所では行わないでください、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。

2 駐車ブレーキを確実に引く
3 チェンジレバーをN位置（AT車はP位置）
4 エンジンアイドル運転
・アクセルやクラッチペダルを踏まない。・PTO装備車はPTOスイッチをOFF。
・水温が低い場合は暖機運転を行ってください。

5 スイッチ をインジケータランプが点滅から点灯に変わるまで押す
クリーニング（再生）開始

●アイドリング回転数が上昇し、エキゾーストブレーキが作動します。
●**約10～25分（ローザは約10～40分）程度**お待ちください。
※クリーニング時間は、PMの溜まり方や気温によって異なります。

インジケータランプが消えたらクリーニング（再生）終了

注意
●クリーニング（再生）が終了しないうちに走行（稼働）すると、再びインジケータランプが点滅します。
●インジケータランプを点滅させたまま、クリーニング（再生）を行わないで走行（稼働）し続けるとウォーニングランプが点灯します。

次のような場合にインジケータランプが点滅することがありますが、クリーニング（再生）要求であり、DPFなどの故障ではありません。
>>渋滞路など低い車速で長時間走行した場合。　>>PTO作業を長時間続けた場合。

出庫前に手動クリーニング（再生）！

走行中の手動クリーニング（再生）を極力さけたいというお客様や、PTO作業をひんぱんにされるお客様は、出庫前等に予めクリーニング（再生）を行ってください。

DPF手動クリーニング（再生）時の注意
●風通しの良い屋外で実施してください。
●排気管のまわりは高温になります。燃えやすい物を近くに置かないでください。

<日中お車を使用されるお客様の場合>

1日の運行 → 帰庫 → クリーニングスイッチを押す（A）

- クリーニングが行われない!!
  - 水温計の針がほぼ「C」の位置 → 暖機運転を行って再度クリーニングスイッチを押してください → Aへ戻る
  - 水温計の針がほぼ真中の位置 → クリーニング作業の必要なし → ゴミ収集車等の一般的なPTO作業で約2時間の連続作業が可能* → 明日も朝から仕事がOK!
- クリーニング作業開始!!
  - エンジン回転数が約1500rpmまで上昇しDPFインジケータ点灯 → 約10～25分後（ローザは約10～40分後）DPFインジケータ消灯 → クリーニング終了 → ゴミ収集車等の一般的なPTO作業で約6時間の連続作業が可能* → 明日も朝から仕事がOK!

＊車両の使用状況によりDPFの目詰まり状態が変わります。

以下の現象は故障ではありません。

走行中に信号待ち等で停車し、アイドリング運転に移行した時、エンジン音やアイドリング回転数が変化することがあります。同時にエキゾーストブレーキが作動します。
■自動クリーニング（再生）を行っているためです。

白煙が発生することがあります。
■水蒸気が排出されるためです。　■排気温度が十分上昇すれば自然に消えます。

排気ガスの臭いが従来のディーゼル車と異なります。
■触媒を通じて排出ガスを浄化しているため、異なった臭いになります。

※詳しくは、取り扱い説明書の「再生制御式DPFシステム」の項目をご覧ください。

ウォーニングランプが点灯したら
三菱ふそう販売店にご連絡ください。

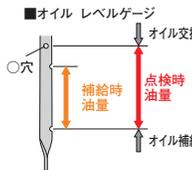
注意
●ウォーニングランプが点灯すると、出力が制限される場合があります。
●ウォーニングランプが点灯したまま走行（稼働）を続けると故障につながります。すみやかに三菱ふそうサービス工場にお越しください。
●PTOの連続運転を実施する場合は、1時間に1回程度、DPFインジケータランプが点滅していないかを確認してください。

アドバイス
6M60エンジン搭載のファイターについて
●自動クリーニング（再生）時のローアイドル回転数が800rpmに上がります。（MT車のみ）
●自動クリーニング（再生）中に低速走行する際は以下の運転方法を推奨します。
トランスミッションの低速ギヤ段を使用し、エンジン回転数を1000rpm以上に維持
これにより、DPF内が高温に保たれ、自動クリーニング（再生）が短時間で終了するため燃費の悪化を防止することができます。

エンジンオイルについて

再生制御式DPF付車は、クリーニング中に燃料の一部がエンジンオイルに混入し、注入時よりもオイル量が増える場合があります。

■運行前、エンジンオイル量をレベルゲージで点検してください。
点検時はオイルが右図の点検時油量の範囲（「下側の切り欠き」～「○穴」の間）にあれば良好です。
オイル量が「○穴」を超えた場合は、エンジンオイルの性能が劣化しているため、必ずオイル交換してください。オイル量が「○穴」を超えたまま使用すると、エンジン故障の原因になり。最悪の場合、意図せぬエンジン回転上昇を招く恐れがあります。

■オイル レベルゲージ
オイル交換　○穴　補給時油量　点検時油量　オイル補給

DPFの機能を長時間維持できなくなる恐れがありますので、必ずDPF対応オイルを使用してください。

ふそう純正オイル（DPF対応オイル）
ふそうエンジンオイルDH-2
ふそうエンジンオイルスーパーDH-2

燃料について

再生制御式DPF装着車両は低硫黄軽油専用車です。
●規格に適合した燃料を使用してください。
●規格以外のバイオ燃料や粗悪燃料、灯油、重油などを使用した場合は、DPF及びエンジン故障の原因になります。
●燃料は「揮発油等の品質の確保等に関する法律」で品質が定められています。

本情報は三菱ふそうホームページの「ふそう耳より情報」2008夏号および2009秋号からの抜粋です。
他にもお役に立つ情報を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。
http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/fusomimiyori/index.html

三菱ふそうトラック・バス（株）　　【新長期規制適合の中型トラック（2009年型～）】

09年型 中型トラック
（HEV車は除く）

再生制御式DPFシステムの手動再生

再生制御式DPFシステムでは、DPFが低速走行などで連続再生（燃焼処理）できない場合、ススの過剰堆積を防ぐためコンピューターが自動的に再生を行っています。しかし、低速走行やエンジン始動・停止などが頻繁に繰り返されると、自動的に再生されず手動で再生を行う必要が出てきてしまいます。また、手動再生には時間がかかるため、運行に支障が出てくることも考えられますので、帰庫後に行うことをおすすめします。

手動再生には約15～25分*かかる!!

走行中の手動再生を極力さけたいというお客様や、PTO作業を頻繁にされるお客様は、帰庫後に手動再生を行いましょう。

*ススの堆積状況により異なります

手動再生が必要になりやすい場合

- 車速20km/h以下の低速走行が主体
- 頻繁（10分以内）にエンジンの始動・停止を行うことが多い
- 短い距離（10km以下）の走行を繰り返す
- 毎回、エンジンが暖機される前にエンジンを停止する
- PTO作業を長時間続ける

覚えておこう!　自動再生中にアクセルの踏み込み量の変化が大きいと、燃焼処理が上手く行えないことがあります。手動再生をさけるためにも、アクセルの変化量を抑えた運転を心がけましょう。

手動再生時の注意点

- 換気の悪い場所では行わないでください、**一酸化炭素中毒**になる恐れがあります。
- 火災を避けるために、枯れ草や紙くずなど、燃えやすいものの付近で行わないでください。
- やけどを避けるために、排気管やマフラー付近に触れずに、また人を近づけないでください。

帰庫後の手動再生

日中お車を使用されるお客様の場合

*車両の使用状況によりDPFの目詰まり状態が変わります。

DPFのスス堆積量の確認

手動再生実施の目安に便利な09年型の新機能

スス堆積量は、エンジン停止時のインジケーターランプの点滅回数で確認できます。3～4回点滅の場合、DPFクリーニングスイッチでDPF手動再生が可能になります。

Step 1　エンジン停止時に、スタータースイッチを“ON”の位置にします。

Step 2　DPFクリーニングスイッチの“ON”を押したままにします。スス堆積量をインジケーターランプの点滅回数で表示します（0.4秒間隔で点滅）。

Step 3　DPFクリーニングスイッチを押している間、インジケーターランプの点滅は1.2秒間隔で繰り返します。点滅回数を確認して、DPFクリーニングスイッチから手を離します。

スス堆積量	インジケーターランプ	DPF再生
少ない	1回点滅	●再生は不要です。●手動再生はできません。
	2回点滅	自動再生が近づいています。
	3回点滅	●自動再生に入ります。●手動再生もできます。
	4回点滅	手動再生ができます。
多い	点灯	再生できません。 DFPにススが過剰堆積しています。 三菱ふそうサービス工場で点検をお受けください。

以下の現象は故障ではありません。

走行中に信号待ち等で停車し、アイドリング運転に移行した時、エンジン音やアイドリング回転数が変化することがあります。同時にエキゾーストブレーキが作動します。
■自動クリーニング（再生）を行っているためです。

白煙が発生することがあります。
■水蒸気が排出されるためです。　■排気温度が十分上昇すれば自然に消えます。

排気ガスの臭いが従来のディーゼル車と異なります。
■触媒を通じて排出ガスを浄化しているため、異なった臭いになります。

12か月ごとの点検をお忘れなく　目詰まり点検など必要となりますので、三菱ふそうサービス工場に依頼してください。点検結果によってはDPFの清掃が必要となります。

手動再生方法など、詳しくは各車両の取扱説明書をご覧ください。